

# 仙台市天文台と共に

# 40年

1973年正月、西公園にあった仙台市天文台の「41cm反射望遠鏡」に搭載された「20cmパーキンエルマー写真機」が、一つの小彗星を捉えていました。

その1週間後、新彗星の発見報告をみてビックリ!その天体こそ新彗星だったのです。私の観測技術が未熟だったため、その新彗星を見逃してしまいました。幻の小石川彗星です。

このことがきっかけとなって本格的に観測を始めるようになり、全国の星仲間を支えられ観測屋としての今日があります。

仙台市天文台で  
撮影した  
ヘル・ポップ彗星



西公園にあった仙台市天文台の望遠鏡

平成25年

3月16日(土)

13:30~15:00



講師 小石川 正弘氏

仙台市教育委員会生涯学習課天文台係長  
宮城県農業高校を卒業し、東京の光学メーカーに2年間勤務した後、1972年から約40年間仙台市天文台に勤務。実家の敷地に設置した「望子観測所」でも観測を行った。これまで65個の小惑星を発見し、そのうち19個には「伊達政宗」や「望子」など仙台にちなんだ名前を付けた。

2010年には超新星(終わりを迎えるときに大爆発を起こして一時的に明るく見える星)を発見し、日本天文学会から天体発見賞を受賞。昨年12月には2個目の超新星を発見した。

場所 仙台市天文台 (加藤・小坂ホール)  
仙台市青葉区錦ケ丘9丁目29-32

対象 小学5年生以上向け (保護者等も可)